

令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域で豊かに生きていく力の育成をめざす。
本校において、豊かに生きていく力とは、
1 豊かなこころ 2 楽しむ力 3 体力 4 コミュニケーション力
の4つの力を重点とする。

2 中期的目標

- (1) 知的障がい支援学校として計画的で効果的な研修・研究に取り組み、授業力の向上をめざす。
(保護者アンケートにおいて授業に関する質問項目 (複数の項目の平均) で肯定的意見 80%をめざす。)
学習指導要領に基づいた指導内容の充実に努める。(シラバスの作成)
障がいの多様化に応じた教育活動の展開ができるよう指導・支援の充実に向け授業改善を行う。
外部人材を積極的に活用する。
ICT 機器の活用やタブレット端末を使用して興味関心を広げる授業づくりに取り組む。
児童生徒の実態を踏まえたうえで、生涯にわたる身体づくりに取り組む。
- (2) 小学部中学部高等部の継続性のある系統的なキャリア教育の充実を図る。
(教職員アンケートにおいてキャリア教育に関する項目 (複数の項目の平均) で肯定的意見 80%をめざす。)
自立と社会参加に向けた必要な能力や態度を育てる。
小学部段階より児童生徒の実態に応じたキャリア教育を行い、学びや勤労の基盤となる能力や態度を育てる。
職業コース制の取り組みを年間を通じて定着させるとともに実施内容を充実する。
多くの児童生徒がスポーツ、文化活動等に親しみ、関係諸機関と連携し活動をする。
- (3) 特別支援教育のセンター的機能の発揮と地域と連携した安全で安心な開かれた学校づくりを推進する。
(保護者アンケートにおいて安心安全な学校に関する項目 (複数の項目の平均) で肯定的意見の 80%をめざす。)
地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒に対してセンター的機能を発揮する。
校内支援の充実を図る。
児童生徒の人権が尊重され、いじめ、体罰等の無い安心できる学校づくりを推進する。
交流及び共同学習に取り組み、居住地校、学校間の交流を行う。
働き方改革をさらに推進し、教職員の健康管理に努める。
80 周年行事を通して、児童生徒に豊かな心を育む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 知的障がい支援学校として計画的で効果的な研修・研究に取り組み、授業力の向上をめざす。</p>	<p>(1) 学習指導要領に基づいた指導内容の充実に努める。</p> <p>(2) 障がいの多様化に応じた教育活動の展開ができるよう指導・支援の充実に向け授業改善を行う。</p> <p>(3) 外部人材を積極的に活用する。</p> <p>(4) ICT機器の活用やタブレット端末を使用して興味関心を広げる授業づくりに取り組む。</p> <p>(5) 児童生徒の実態を踏まえたうえで、生涯にわたる身体づくりに取り組む。</p>	<p>(1) ・教科ごとに年間の学習題材や内容、評価基準を検討し、本校のシラバスを充実させる。</p> <p>(2) ・授業見学会を実施し各教員間で相互見学をする。 ・研究部が授業改善に向けた研修会を実施する。 ・学部を越えた教科会を実施し、系統的な指導計画や指導の実際について改善を図る。 ・校内研修体制を整備する。</p> <p>(3) ・大阪府福祉医療人材活用事業でPT、ST、OT 臨床心理士を活用し、障がいの状況に合わせた指導法の改善に役立てる。 ・授業支援のためボランティアを活用する。</p> <p>(4) ・ICT機器の積極的な活用を推し進め、教員のICT活用スキルや活用頻度を引き上げる。</p> <p>(5) ・食に関する情報、食育指導において学習の様子などを情報発信する。 ・アレルギー対応、緊急救急訓練など継続的に研修を実施する。</p>	<p>(1) ・学校自己診断において「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」(保)において80%の肯定的回答をめざす。 (H29.74% H30.78% R1.75%)</p> <p>(2) ・自己診断において「見学する機会がある」(教)の意見が80%以上をめざす。(H29.78% H30.66% R1.64%) ・計画的に教科会を実施し学部間での意見交換を記録する。 (学期に1回) ・「校内研修組織が確立され計画的に実施されている」(教)において自己診断において肯定的意見75%をめざす (H29.78% H30.58% R1.62%)</p> <p>(3) ・福祉医療人材活用事業を活用し、いただいた指導助言を元に、校内研修会を行い指導に活かす。</p> <p>(4) ・ICT機器を活用した指導事例を5事例以上HP上で発信する。</p> <p>(5) ・HPを活用しながら、月1回発信をしていく。 ・救急訓練各学部1回、アレルギー事案に対する研修(全体1回)を実施する。</p>	
<p>2 小学部・中学部・高等学校部の継続性のある系統的なキャリア教育の実現を図る。</p>	<p>(1) 自立と社会参加に向けた必要な能力や態度を育てる。</p> <p>(2) 小学部段階より児童生徒の実態に応じたキャリア教育を行い、学びや勤労の基盤となる能力や態度を育てる。</p> <p>(3) 職業コース制の取り組みを年間を通じて定着させるとともに実施内容を充実する。</p> <p>(4) 多くの児童生徒がスポーツ、文化活動等に親しみ、関係諸機関と連携し活動をする。</p>	<p>(1) ・「挨拶」、「約束を守る」などの基本的な社会生活を送れるスキルを学習する。</p> <p>(2) ・学部学年の発達段階に応じたキャリア教育を進める。 ・自己理解を深め、将来の進路について関心を深める。</p> <p>(3) ・職業コース制おける授業の充実ははかる。</p> <p>(4) ・特別活動、クラブ活動を通じてスポーツや文化活動に触れる機会を持つ。</p>	<p>(1) ・生徒会活動の一環としてあいさつ運動を継続する。</p> <p>(2) ・小学部では、生活に即した体験学習を通じて自ら取り組もうとする力を身につける。 ・中学部では社会生活に関する関心を高め表現する力をつける。 ・高等部では実習を通じて社会生活に必要な知識技能をつける。 「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている。」 (保)において肯定的意見80%をめざす。(H29.74% H30.83% R1.77%)</p> <p>(3) ・在籍者の8%企業就労をめざす。 (H29.4% H30.7% R1.5%)</p> <p>(4) ・芸術を鑑賞する行事を実施する。 ・スポーツ・文化活動に触れる機会を持つ。地域の「おいでな祭り」に出店する。</p>	

<p>3 特別支援教育のセンター的機能の発揮と地域と連携した安全で安心な開かれた学校づくりを推進する</p>	<p>(1) 地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒に対してセンター的機能を発揮する。</p> <p>(2) 校内支援の充実を図る。</p> <p>(3) 児童生徒の人権が尊重され、いじめ、体罰等の無い安心できる学校づくりを推進する。</p> <p>(4) 交流及び共同学習に取り組み、居住地校、学校間の交流を行う。</p> <p>(5) 働き方改革をさらに推進し教職員の健康管理努める。</p> <p>(6) 80周年行事を行い、児童生徒の豊かな心を育む。</p>	<p>(1) ・大阪市インクルーシブ教育推進担当と連携をし、スムーズに地域支援を実施する。</p> <p>(2) ・校内支援体系の見直しをはかる。</p> <p>(3) ・教職員対象の人権研修会の実施と人権意識の向上をめざす。 ・いじめの早期発見、早期解決に向け組織的な対応を心がける ・防災・防犯の避難訓練を実施する。</p> <p>(4) ・地域の小学校中学校との交流及び共同学習を継続して行い、互いを尊重する気持ちを育成する。 ・高等部においては淀商業高校、淀川清流高校との活動を継続し、相互理解とともに豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>(5) ・超過勤務の削減に向け週に一度の定時退庁日と毎月20日の定時退庁日をさらに徹底する。</p> <p>(6) ・各学校行事に80周年記念の冠をつけ、児童生徒に祝う心を育てる。</p>	<p>(1) ・支援をした学校を対象としアンケートで5点満点中3.5点以上をめざす。(R1 3.4)</p> <p>(2) ・リーディングスタッフ主催の研修会を学期に1回実施する。</p> <p>(3) ・自己診断において「人権尊重の支援指導が行われている」(教)の項目で肯定的意見90%をめざす。 (H29.82% H30.76% R1.69%) ・いじめ0件を継続する。 ・あらゆる可能性を想定した避難訓練を継続実施する。</p> <p>(4) ・自己診断において「交流の機会を設けている」(教)の項目で肯定的意見90%をめざす。 (H29.84% H30.77% R1.87%)</p> <p>(5) ・定時退庁日の19時以降の退庁者を毎月5%未満にする。</p> <p>(6) ・80周年行事において児童生徒保護者を含めた形でマスコットキャラクターの制作をする。</p>	
--	---	---	---	--